



9年間で育てる子ども像

准校長 岩崎 健治

夏休み前は雨の日が多く気温も低めでしたが、夏休みに入ると同時に暑い日が続きました。学校が始まって3週間が経ち、吹く風もだいぶ秋めいてきました。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

休み明け、小学部では、夏休みの作品を鑑賞し合い、交流を深めることができました。今は、運動会に向けて、それぞれの学年や役割ごとに、毎日熱心に取り組む姿が見られます。

中学部では、夏休み中に大会等で一区切りを終えた部活動が、新たな体制でスタートを切っています。前期の期末試験も行われ、学習を通して身に付けた力を発揮していました。10月の学習発表会（あすなろ）へ向けての準備も本格的に始まっています。

さて、霧が丘学園の昇降口や教室には、スローガン「すすんで挑み、自分をみがく」～「何する、どうする」から「気づく、考える、行動する」へ～が掲示してあります。

このスローガンは、育成を目指す資質・能力である、何事にも積極的に行動する力、課題や問題を自ら解決できる力、発達段階に応じた自己有用感の育成をもとにして、9年間で育てる子ども像の「積極的に行動して、課題を自ら解決できる児童・生徒」の育成をスローガン化しているものです。授業でも、9年間で育てる子ども像のもとに、自ら「見出す 伝える 深める」子どもの学びを目指して「考える力」を伸ばすための指導の工夫を行っています。子どもたちは日々の生活の中で、自分たちで気づき、考えて、行動する場面や活動が多くあります。

変化の激しい社会を生きるためには、教育活動のすべてを通して、多様な人々と共同し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な未来社会を切り開いていくための資質・能力の育成が求められています。育成を目指す資質・能力をもとにした「9年間で育てる子ども像」を描き、スローガンの実現を子どもたちとともに目指していきます。

先日行われた霧が丘夏期総合防災訓練では、代表児童・生徒が訓練に参加させていただきました。子どもたちが、身近な地域とのつながりの中で多くのことを学び、気づき、考えて、行動していく姿を感じました。これからも学校・家庭・地域の連携の中で、子どもたちを育み育てられますよう、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



《小学部正門のクロガネモチ》